



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年10月28日

上場会社名 株式会社 帝国ホテル
 コード番号 9708 URL <https://www.imperialhotel.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長
 四半期報告書提出予定日 2022年11月4日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 定保英弥
 (氏名) 杉山和久
 TEL 03-3504-1111

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	18,607	51.4	△1,012	—	△64	—	136	—
2022年3月期第2四半期	12,290	43.7	△5,462	—	△3,820	—	△3,810	—

(注)包括利益 2023年3月期第2四半期 195百万円 (—%) 2022年3月期第2四半期 △3,595百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	2.29	—
2022年3月期第2四半期	△64.23	—

(参考)EBITDA 2023年3月期第2四半期 1,391百万円 2022年3月期第2四半期 △2,350百万円
 (EBITDA=経常利益+支払利息+減価償却費)

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	56,480	—	37,928	—	—	67.2
2022年3月期	59,111	—	37,970	—	—	64.2

(参考)自己資本 2023年3月期第2四半期 37,928百万円 2022年3月期 37,970百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,100	50.6	200	—	1,050	—	1,000	—	16.86

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	59,400,000 株	2022年3月期	59,400,000 株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	75,988 株	2022年3月期	75,988 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	59,324,012 株	2022年3月期2Q	59,324,012 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている将来に関する記述は当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症第7波の影響や海外からの渡航制限の長期化に加え、ウクライナ情勢などを背景とした原材料や燃料価格の高騰などにより、経営環境は依然として厳しい状況となりました。

ホテル・観光業界におきましては、入国時における水際対策の継続によりインバウンド需要は非常に厳しい状況が続きました。一方、国内においては、まん延防止等重点措置などの各種制限が発出されることなく、わずかながらホテル・観光業界にも回復の兆しが見られました。

このような状況のもと当社グループにおきましては、お客様に安心してご利用いただけるよう感染防止対策を徹底するとともに、様々な販売施策の展開や的確な価格戦略、経費削減により業績の回復に努めてまいりました。

営業面につきましては、個人消費が回復基調に向かう中、国内顧客に向けた販売促進活動に努めるとともに安全・安心な環境を整え、さらなるサービス向上に繋げるためのサービス料率の改定など、売上げの最大化に努めてまいりました。

また、9月27日に執り行われました国葬儀においては各国賓客を万全の体制で受け入れるなど、社会的責任を全ういたしました。

さらに経費面におきましても、コストの見直しを継続して行い経費執行を最小限に抑えるなど、利益の確保に努めてまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は前年同期比51.4%増の18,607百万円となりました。営業損失は1,012百万円、雇用調整助成金等を加味した経常損失は64百万円となり、十分な回復には至らなかったものの、当初予想から改善し、前年同期の損失額を大きく圧縮することができました。これに、特別利益を計上した親会社株主に帰属する四半期純利益は136百万円となりました。

なお、2022年5月12日に公表した『中長期経営計画2036』においてEBITDA（経常利益＋支払利息＋減価償却費）を定量目標の一つとしており、当第2四半期連結累計期間のEBITDAは1,391百万円となりました。

セグメントの業績におきましては、ホテル事業の売上高は前年同期比59.5%増の17,006百万円、営業損失は683百万円となり、不動産賃貸事業の売上高は前年同期比1.8%減の1,606百万円、営業利益は前年同期比10.2%増の654百万円となりました。

当社グループが営むホテル事業は、第1四半期及び第3四半期に宿泊及び宴会需要が強く、売上高が多く計上される傾向があります。しかしながら、2021年3月期第1四半期連結累計期間以降、新型コロナウイルスの世界的な感染の影響により、例年の傾向とは大きく異なる結果となっております。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べて4.5%減少し56,480百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて7.0%減少し29,008百万円となりました。これは現金及び預金の減少などによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べて1.6%減少し27,471百万円となりました。これは投資有価証券の減少などによるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて32.0%減少し4,632百万円となりました。これは未払費用の減少などによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べて2.8%減少し13,919百万円となりました。これは建替関連損失引当金の減少などによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末並みの37,928百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、政府による観光需要喚起策の実施、水際対策の緩和による訪日外国人の増加など、ホテル・観光需要の回復が期待され、当社グループにおきましても宿泊、レストラン、宴会それぞれの部門において予約の伸長が見られます。引き続き感染防止策を徹底しながら営業活動を強化し、売上向上を図ってまいります。

3年近くに及ぶコロナ禍により、社会の価値観や生活様式は大きく変化しました。当社グループはこの経営環境の変化に合わせて、サービスアパートメント事業や巣ごもり需要に対応すべく移設拡充したホテルショップ『ガルガンチュワ』など、新たな事業や施策を積極的に展開してまいりました。

当社グループは長い歴史の中で「変えるべきものを変え、変えてはならないものを守る」という選択を繰り返してまいりましたが、今後も多様化するお客様の嗜好やニーズを的確に捉え、さらなる企業価値の向上に取り組んでまいります。

当社グループは本年5月、帝国ホテル東京の建替え後を見据えた「中長期経営計画 2036」を策定、公表いたしました。

この経営計画において「創業の精神を継ぐ『日本を代表するホテル』として、人を原点とする帝国ホテルブランドをより進化させる」ことをビジョンに掲げ、130年を超える歴史の中で培われてきた当社が誇る経験豊富な従業員の存在が企業価値を高めるうえで何よりも大切な原点であることを表明いたしました。

帝国ホテル東京の建替え、京都新規ホテル開業の両計画とサービスの原点ともいえるヒューマンウェアが融合することで、帝国ホテルブランドはさらに向上するものと確信しております。

経営計画の公表後、全従業員に対して社内説明会を行い、このビジョンを全員で共有いたしました。全社一丸となって、中長期的な企業価値の向上に取り組んでまいります。

なお、2022年5月12日に発表いたしました通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,216	9,551
売掛金	1,666	2,242
有価証券	15,905	15,806
貯蔵品	619	680
その他	801	733
貸倒引当金	△7	△5
流動資産合計	31,201	29,008
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,651	8,566
その他（純額）	5,361	6,584
有形固定資産合計	15,012	15,151
無形固定資産		
投資その他の資産	1,142	1,098
投資有価証券	6,134	5,596
その他	5,620	5,624
投資その他の資産合計	11,755	11,221
固定資産合計	27,910	27,471
資産合計	59,111	56,480
負債の部		
流動負債		
買掛金	832	817
未払法人税等	51	66
未払費用	1,934	1,201
前受金	812	945
賞与引当金	654	74
その他	2,527	1,527
流動負債合計	6,813	4,632
固定負債		
退職給付に係る負債	6,907	6,829
資産除去債務	1,010	1,011
長期預り金	3,997	3,925
建替関連損失引当金	1,993	1,750
その他	418	403
固定負債合計	14,327	13,919
負債合計	21,141	18,552

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,485	1,485
資本剰余金	1,378	1,378
利益剰余金	34,639	34,538
自己株式	△89	△89
株主資本合計	37,413	37,312
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	844	828
退職給付に係る調整累計額	△288	△213
その他の包括利益累計額合計	556	615
純資産合計	37,970	37,928
負債純資産合計	59,111	56,480

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	12,290	18,607
材料費	2,482	4,002
販売費及び一般管理費	15,271	15,618
営業損失(△)	△5,462	△1,012
営業外収益		
受取利息	16	13
受取配当金	26	59
持分法による投資利益	-	37
雇用調整助成金	1,199	385
新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金	197	279
その他	208	172
営業外収益合計	1,648	948
営業外費用		
支払手数料	-	0
持分法による投資損失	6	-
営業外費用合計	6	0
経常損失(△)	△3,820	△64
特別利益		
建替関連損失引当金戻入額	-	223
その他	-	2
特別利益合計	-	225
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△3,820	161
法人税、住民税及び事業税	17	23
法人税等調整額	△27	1
法人税等合計	△9	24
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,810	136
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,810	136

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△3,810	136
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	136	△19
退職給付に係る調整額	77	75
持分法適用会社に対する持分相当額	1	3
その他の包括利益合計	215	58
四半期包括利益	△3,595	195
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,595	195

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失 (△)	△3,820	161
減価償却費	1,469	1,456
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1	△579
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△53	△78
建替関連損失引当金の増減額 (△は減少)	△3	△243
受取利息及び受取配当金	△43	△73
持分法による投資損益 (△は益)	6	△37
雇用調整助成金	△1,199	△385
新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金	△197	△279
売上債権の増減額 (△は増加)	44	△576
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△9	△60
仕入債務の増減額 (△は減少)	△34	△14
未払費用の増減額 (△は減少)	△152	△732
長期預り金の増減額 (△は減少)	△198	△71
差入保証金の増減額 (△は増加)	0	0
その他	693	△544
小計	△3,501	△2,064
利息及び配当金の受取額	91	122
雇用調整助成金の受取額	1,304	431
新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金の受取額	197	280
法人税等の還付額	394	22
法人税等の支払額	△9	△29
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,523	△1,238
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△928	△1,717
投資有価証券の取得による支出	△126	-
投資有価証券の償還による収入	1,200	600
差入保証金の差入による支出	△500	-
資産除去債務の履行による支出	-	△4
その他	△220	△66
投資活動によるキャッシュ・フロー	△575	△1,188
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△237	△237
財務活動によるキャッシュ・フロー	△237	△237
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,335	△2,664
現金及び現金同等物の期首残高	28,651	25,215
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,315	22,551

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書(2022年6月27日提出)に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りの仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル 事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,659	1,631	12,290	—	12,290
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	4	4	△4	—
計	10,659	1,636	12,295	△4	12,290
セグメント利益 又は損失 (△)	△5,048	594	△4,454	△1,008	△5,462

- (注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル 事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,006	1,601	18,607	—	18,607
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	4	4	△4	—
計	17,006	1,606	18,612	△4	18,607
セグメント利益 又は損失 (△)	△683	654	△29	△983	△1,012

- (注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。